

長期スギ舌下免疫療法における咳症状の効果

山田武千代, 意元 義政, 坂下 雅文, 扇 和弘, 加藤 幸宣, 藤枝 重治
福井大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

1911年にLeopard Noonによりイネ科花粉症に対する予防的な皮下抗原特異的免疫療法が最初に報告されて以来100年が経過した。花粉症に対する抗原特異的免疫療法では、薬物の量が減らせる、治療をやめた後も効果が持続する、他抗原による感作予防、喘息の発症予防、花粉症の治癒が期待されている。日本でもスギ花粉症に対して臨床研究・試験を経て舌下免疫療法の保険診療が始まった。舌下免疫療法では長期成績が重要であり、長期療法における鼻症状薬物スコアの効果やT helper 1 (T_H1)/T_H2/ T_H17サイトカインなどのバイオマーカーの変動について検討してきた。今回は咳症状におけるスギ舌下免疫療法136例における咳症状の効果について検討した。舌下免疫療法を4～5年行くとスギ花粉飛散ピーク時の咳症状が有意に抑制されることが判明した。花粉症の咳症状について考察する。